【富樫先生への質問と回答】11 問

Q1　アクティブ・ラーニングの有効性について伺います。関心を惹起させることの難しさを感じています。

ご質問ありがとうございます。
大人数ですので、授業時間内での学生個人へのアプローチは難しいこと、他者からの接触が恐怖であるという学生への対処方が見いだせていないこともあって、自分自身が満足のいくアクティブラーニングを実施できておりませんので、不十分なお答えで申し訳ございません。
関心の惹起という点につきましては、刑法に限って言うと、抽象的理論を学ぶことの必要性を感じられないということが関心の低下につながっていると感じています。
そのため、可能な限り事例を提示し、これを解決するために必要な知識を今から説明すると宣言し、説明した知識を基に学生さんに冒頭の事例を解決してもらう（知識の復習と定着）という授業構成をとっております。
学んだことが即生かせるという体験は（ごく初歩的な体験とはいえ）、若い人にとっては楽しいようです。

実際の刑法の例ですと、刑事判例を簡単にした事件といくつかの結論（学説・判例）の選択肢を提示し、まずは直感で結論選択してもらいます。
その後、その結論を支える理論（学説・判例）について詳しく解説し、もう一度、結論とそれを支える理論のうち、自分がなぜ・どれを支持するかを考えさせ、それをもとに「事例の解決」としてまとめさせます。
アクティブラーニングというほど高度なことではないですが、これによって、授業後も友人同士であれこれ話し合っている学生がいるようです。

その他の例としましては、
・レジュメに「今日の課題」という簡単な演習問題をつけています。授業内容が理解できているかのほんとうに初歩的確認問題ですが、勉強に自信のない学生が教員に質問に来るきっかけになっているようです。
・話題のニュースの新聞記事を配布し、自分で考えてもらった後で、講師が解説を加える等もあります。
・たまにマイクをまわして、問題の回答や条文を読んでもらうこともあります。

Q2 教材準備にどれほどの時間をかけておられますか？

ご質問ありがとうございます。

赴任前から作っていたレジュメを毎年改訂しながら使用しているため、大幅な改定が必要な部分とそうでない部分で準備時間にかなり差があります。
最初から作る場合、講義１回あたり平均して４時間程度かかります（問題作成、自分が話す内容の準備含む）。
もっとも、時間がかかるのは私の能力がないことと、レジュメが必要以上に細かいせいなので、他の先生方なら、よりよい内容のものをもっと効率よく作成されるのではないかと思われます。

Q3 学生へのフィードバックをどのような形で行っていますか？

ご質問ありがとうございます。
自分の事務処理能力が低いせいで、充分にできていないと思っています。現時点で実行しているのは以下の通りです。
・授業後の質問以外に、メールでの質問・答案添削を随時受け付ける（年間 15 件程度）
・学生さんからの質問を、次回授業で紹介し全体で共有する
・希望者には答案添削を行い、コメントを返す（法律学科）
・希望者にはレポートのコメントを返す（政治学科）
・（昨年今年はしませんでしたが）定期試験の優秀解答をコメントつきで掲載する
・（昨年今年はしませんでしたが）前期に独自の授業アンケートを実施し、コメントを述べて後期から改善する等の試みを行っています。

Q4 自律的学習が可能になるのは全体の何割程度ですか？

ご質問ありがとうございます。
正直なところ、不明です。
前期より後期により多く授業時間以外に教科書を読んでいる姿をみかけるようになること、授業アンケートによれば刑法を勉強するようになったという回答も多いですが、同アンケートの学習時間の解答項目（勉強時間が少ない）から、その質は疑わしいように思えます。
数年前に比べて白紙答案がほぼ０なので、それなりに勉強はしているようであること、私の授業とは無関係に自律的学習をしている勉強熱心な学生さんはいるのは確かですが、質・量ともに自律学習については、今後の課題として、独自の調査、対応が必要かと感じてます。

Q5 必修科目単位認定の理解レヴェルはどこに置いていますか？

ご質問ありがとうございます。

・刑法総論の全体構造（犯罪論の三分体系）を理解すること。
・授業で扱った条文を読めるようになること（条文に明記されていないが当然理解すべき内容を知ること）。
・基本的論点と専門用語を理解し、「法律学の」答案が書けるようになること。
・指定教科書を読んで、自分一人で刑法の勉強ができるようになること。
です。すべての論点を教えられるわけではないので、刑法（法律）の勉強のやりかたをマスターし、２年次以降の講義についていけるようにする（各種試験・ロースクール向けの自習ができるようになる）ことに重点を置いています。

Q6 発展的学習は本学においてどのように実践すべきなのか？教えて欲しいと思います。

ご質問ありがとうございます。
私自身にも答えが見つかっておらず、自分の未熟さを棚に上げた思い付きで恐縮ですが、発展学習を意識したカリキュラム構成をとらないと難しい科目が多いと思われます。
例えば、法学部法律学科では、次年度からは、法律の入門講座の類は一切なく、１年生の必修専門科目（4 単位）が前期から３つ開始されます。
刑法総論はこのうちの１つで、かつ、これ以外に刑法総論のコマはありません。
必然的に、法律学の初歩的知識も教えなければならず、発展的学習の時間を十分に取ることは現時点ではかなり困難です。
（1 年の講義のうちに数回は、発展的問題を扱う時間をとっていますが、大学教育という観点からは不十分だと自己評価しています。）

したがって、理想を言えば、入門・基礎・発展と無理なく展開できる授業カリキュラムを確保する必要があるかと思います（増コマは難しいのでしょうが）。
法学部では、近年できた「特殊講義」の枠で、従来の内容を超えた発展的講義を実施する試みが始まっていますが、まだ効果の程はわかりません。

一番の問題として、学生自身、発展的知識を求める意欲が低下している（楽単を好む）こともあります。
すぐに役に立つ知識を欲する彼らのニーズと社会情勢を調査し、授業名から魅力あるものに変え、社会人となった後に即時に役立つ知識とからめての発展学習を行っていくことは有効かもしれませんが、果たしてそれが大学教育としてふさわしいものかはわかりません。

現時点では、ゼミの活用が重要かと思います。
少人数教育が可能なゼミにおいて、各学生のレベルにあった発展的課題を与え試行錯誤を見守ることで、学生は飛躍的に成長します。

もっとも、教員の負担が格段に重くなること、やりすぎると「ブラックゼミ」として学生に敬遠されてしまうので、これもまた難しいところだと感じています。

Q7 配布資料の実物の一部を拝見したいです（web 上で良いのですが）

ご質問ありがとうございます。
YeStudy にレジュメがアップロードされておりますので、ご登録いただいてご自由にご覧いただければと存じます。
必要があれば、私からワードまたは PDF ファイルをお送りします。
今年は筆記量を減らして、教科書を多く活用し、考えさせる時間を増やすという試みをしましたが、あまり効果がないようなので、来年からはまた違うものになる予定です。

Q8 基本典籍の講読などで工夫なさっていることはおありですか？

ご質問ありがとうございます。
書籍の選定において、大学教育の目指す地点を示す意味と中～上位の学生の自習にたえうるよう、学部学生が読める平易さと、資格試験を目指す学生の基本書となりうるそれなりに高度なものを選んでいます。
現在は、ロースクールでも使用されている、それなりに高度な内容で、かつ、知識を即座に確認できる事例豊富なものを選んでいます。
（かつて私の好きな名著を指定していましたが、学生さんが自宅で一人で読もうと思っても全く読めない、というので変更しました）

中～上位の学生さん向けには、授業では解説しないが重要な論点について、教科書の該当ページを示して自習を指示することもあります。
授業では、学力がついてこない学生さん向けに、教科書の説明で難しい個所については、授業中に解説を加えたり、言い換えたりして、自習時につまづかないように工夫しています。
大学院の講読とは全く別物です。

Q9 学生とコミュニケーションを取り授業の改善を行っているとのことでしたが、大教場の場合、一人一人とコミュニケーションを取ることが難しいのではないかと感じる。どのような工夫を行っていますか。

ご質問ありがとうございます。

・数年前まで、前期の途中（6 月初旬）に独自に授業アンケートをとっていました。その結果について授業中に口頭でフィードバックを行い、遅くとも後期から改善するようにしていました。
・また、授業開始前後にランダムに学生さんに話しかけて、苦情、要望を聞いたり、どのくらいノートが取れているのか見せてもらうこともしばしば行っています。
・学生さんの質問から、説明が下手だった部分がわかるので、そこを改善したり、時間があれば、その学生さんに今日の授業の感想を聞いて改善することもあります。
・ゼミ生が授業を見学に来て（私が頼んでいるわけではありません）、批評してくれることがあるので、それも参考にしています。

Q10 平常点を設けておられませんが、出席をとらなくてもしっかり勉強させ、自発的に出席させるコツをもっと詳しく教えていただきたいと思いました。

ご質問ありがとうございます。
学生さんに、出席点のかわりに以下のようなサービスを行うので、出席点はなくとも出席推奨であると告知しています。
すべてランダムに行うので、その回だけ出席することはできない仕組みにしています。
・暗記しても解答できない問題を定期試験で出題しています。その解説や練習は授業時間で行うので、家で自習するより出席してその場でマスターした方が効率が良いことを強調しています。
・定期試験の出題範囲が公式には授業全範囲となっていますが、折々の授業中にヒントを与えています。特に配点の高い論述に関しては、授業に出ていれば、２つの単元のどちらか程度に山を張って準備できるくらいには絞り込めるようにしています。
・時々、独自の答案の書き方講座を行っています。定期試験の内容や答えを教えるのではなく、法律学答案の書き方や配点基準、採点する教員の心情を教えるだけですが、これだけは好評です。
・レジュメや教科書は平面的ですので、どうしても暗記しなければいけない項目に色ペンでしるしをつけさせたり、難しい問題の図解を黒板に書いたり、新聞記事の配布と解説などを行ったり、法律を生かした職業の話をしたりなどです。
とはいえ、それでも出席してこない学生さんがいるので、もっとよい方法はないか思案しています。

Q11「学生に手を動かさせる」いわゆる実習的な部分と、講義の部分、配分はどれくらいでしょうか。

ご質問ありがとうございます。
年度、クラスによって変動しますが、今年は講義部分が多くて、３：７程度でした。

かつては６：４程度だったのですが、なぜか今年はノートをとるのが苦手な学生さんがとても多かったためです。
自習課題で答案を書いてくる、というものがあるので、本当は、家で自習すればもっと手を動かすはずですが、うまくいっておりません。
さらに今年は定期試験の結果が良くなかったので、来年は手を動かさせる部分を増やす予定です。

【中村先生への質問と回答】10 問

Q1 教材準備にどれほどの時間をかけておられますか？

毎年の講義内容やレジュメについての大幅な変更はなく、過年度のものをベースに、データを最新のものにしたり、新しい事例を加えています。従いまして、近年の準備時間は 5 時間程度です。ただ、現在の形になるまでは、毎回の準備に 20 時間以上かけ、参考文献も 30 冊くらいをもとに作成しました。また、近年の傾向としては、実際のデータや写真をプロジェクターで映すことが多くなっています。

Q2 学生へのフィードバックをどのような形で行っていますか？

リアクションペーパー（以下、リアペ）を 2 週間に一度、宿題として課しています。枚数は毎回 350 枚程度になります。すべてのものに目を通しますが、枚数の多さから全員に直接フィードバックすることはできていません。そこで、優秀作を 3，4 点選び、プロジェクターで映してコメントをしています。受講生からは、優秀作を示すことによって、どういう構成や内容にすれば評価が高いのかということが分かって良かったというコメントを多くもらいます。

Q3 自律的学習が可能になるのは全体の何割程度ですか？

受講生のリアペの内容などをみていると、明らかに回数が進むに従って内容や書き方が良くなっています。また、優秀作に選ばれた場合は、とても誇らしいようです。ただ、全員が積極的に受講しているわけではなく、体感的には 6 割くらいの学生が授業を支えている感じです。

Q4 必修科目単位認定の理解レベルはどこに置いていますか？

「経営戦略論」は専門選択科目ですが、私は必修科目「企業論（1 年生対象）」も担当しているので、その科目のことで書きます。必修科目の単位認定は、2 年次以上対象の専門選択科目に比べると基準はかなり低めにしています。まず、リアペの回数を多くして、試験以外の評価割合を高めています。試験も長い記述を要求するようなものではなく、専門分野の基礎的な用語や考え方の理解ができているのかということを問う問題にしています。

Q5 発展的学習は本学においてどのように実践すべきなのか？教えて欲しいと思います。

経営学部のような多人数授業によって多くの科目が構成されているような場合は、専門授業だけでは発展的学習は難しいと感じます。ゼミは授業で勉強した内容を実際に実践してみるということでは効果があると思います。また、経営学部にある「特殊講義」「現代マネジメント（平成 30 年度から開講）」というようなアクティブ・ラーニングを意識しているような科目が発展的学習には適しており、今後増やしていくことが必要だと感じています。例えば、テーマを決めて（日本企業のＭ＆Ａ、日本のアニメ産業分析など）、教員も複数で担当し、1 つのテーマをさまざまな専門領域から分析していくという専門科目横断的な特徴を持つような科目の設置も個人的には興味があります。

Q6 基本典籍の講読などで工夫なさっていることはおありですか？

私たちの専門分野では、基本テキストのことと理解して回答いたします。授業においては、テキストを読むのではなく、テーマに沿ってまとめたオリジナルレジュメを使用しています。経営学分野のテキストは、著者によって書かれているテーマや扱っている具体的な企業も異なります。従いまして、他の人の書いた本をテキストにすることは意外に難しいのです。私の授業では、レジュメの作成においても理論だけではなく、学生が興味を持ちそうな事例を取り上げて、入り口を低くしたうえで、理論の重要性が分かるような流れにしています。

Q7 平常点を設けておられませんが、出席をとらなくてもしっかり勉強させ、自発的に出席させるコツをもっと詳しく教えていただきたいと思いました。

本科目は、経営戦略論という就職してからも必ず役に立つと思われる分野の特殊性もあるかと思います。授業の方法としては、毎回 1 つの大きなテーマで扱っていて、翌週に持ち越すようなことはありません。1 回の授業をしっかりと聞けば、そのテーマの内容が理解でき、今までは分からなかったことが新しく分かる、ということを重視しています。

また、将来に役立つこと、駒大生が他大学生よりも優位になるための方法など、学生が不安に思っていることを少しでも解消できるようなことも話しています。授業アンケートでは、専門知識を学べるとともに、毎回出席すると新たな発見があって良かったという感想もいくつかあります。専門分野の内容＋αが重要かと思います。

Q8 大教場での多人数の授業にもかかわらず、工夫された授業で大いに参考になりました。一つ質問させていただきます。小レポート（15 回）読むのも大変だと思われますが、毎回このレポートを評価に加えられているのでしょうか？レポートと履修学生を一致させることは大変だと思われますので伺います。

リアクションペーパーを 2 週間に一度、宿題として課しています。通年授業なので年間では約 15 回分、枚数は毎回 350 枚程度になります。すべてのものに目を通し、評価付けもしています。枚数的に多いと感じるかもしれませんが、3 年前までは毎週の宿題としていましたし、受講生も抽選がなかった時代は、最大 600 名以上の時もあったので、それに比べると少くなった感じがしています。

リアペの点数は、評価のうちの 4 割ほどを占めます。内容の良いものには 4 割以上の評価も付け、水準の低いものは数点しかつかない場合もありますので、受講生の大半はしっかりと取り組んでいます。頑張れば報われる成績評価の方法です。

ただ、枚数の多さから全員に直接フィードバックすることはできていません。そこで、優秀作を 3，4 点選び、プロジェクターで映してコメントをしています。受講生からは、優秀作を示すことによって、どういう構成や内容にすれば評価が高いのかということが分かって良かったというコメントを多くもらいます。

Q9 経済学部より経営学部が近年は人気があります。駒大でも同様の傾向にあると感じています。この要因について、どう思われますか？

以前は、受験生からすると経済と経営の違いは不明確だったと思います。そのため、企業や組織に興味のある学生でも、歴史があり、全国的に学部数も多い経済学部の方に注目が集まっていたのではないでしょうか。それが、経済と経営の違いについて、HP などで目にする機会も増え、オープンキャンパスで自ら体験することも可能になったので、経営学部がどういうものであるのか分かってきたことが背景にあると感じます。経営学部の内容についての理解が深まったために、企業活動やマーケティングに興味を持つ学生が経営学部を選ぶようになったと思います。

Q10 もし 40～50 人程度の授業ができるとしたら、アクティブ・ラーニング等は取り入れたいですか？（研修会に参加した経営学部学生からの質問）

アクティブ・ラーニングについては、私の経験で言えば、人数的な問題以上に学生のモチベーションが重要であると感じます。さすがに 100 名以上の科目では難しいと思いますが、50 名程度であれば、5 名×10 グループに分けてできるはずです。ただ、通常の授業の場合は、必ずしも授業にコミットメントした学生ではなく、メンバーによってはグループ活動も著しくマイナスのなる恐れがあります。（実際に新入生セミナーをグループワークで行っているのですが、やる気のない学生と一緒になったグループは、まったく盛り上がらずに、見ていても可哀そうになりました。）従いまして、何らかの方法で選抜した学生たちでないと、一定の高い効果を出すようなアクティブ・ラーニングは難しいと感じます。

また、アクティブ・ラーニングを効果的に行うためには、教員一人では限界があります。例えば、必修科目であれば上級生、2 年以上の科目であればすでに履修済みの学生がメンターとして入るなど、学生の力を借りることが必要であると思います。これは、メンターとなる学生のモチベーションやスキルの向上にもつながるので、大学としても制度として検討してほしいと思います。

【矢野先生への質問と回答】9 問

Q1 アクティブ・ラーニングの有効性について伺います。関心を惹起させることの難しさを感じています。

アクティブ・ラーニングというほどのものではありませんが、C-learning を使って、授業を受けていれば簡単に答えられる課題を出したり、授業への要望をアンケート調査して、授業終了後一週間以内に回答してもらうなどの試みを行っています。ですが、アクティブ・ラーニングについては私自身もまだ試行錯誤している最中です。

Q2 教材準備にどれほどの時間をかけておられますか？

教材の準備は、授業初年度は一週間ずっと授業の準備をしている状態ですが、次年度からは手直し程度になります。ただし、学生たちの関心を引き出すため、できるだけ経済の時事問題を取り上げるようにしているのですが、その際にはやはり準備に時間がかかります。

Q3 学生へのフィードバックをどのような形で行っていますか？

学生へのフィードバックというほどではありませんが、出した課題が記述式の場合は、興味深い回答を紹介したり、授業への要望の中から回答の必要があるものについては授業中に回答しています。

Q4 自律的学習が可能になるのは全体の何割程度ですか？

自律的学習が可能になるのは全体の何割程度かは、きちんと調べたことがないので、分かりませんが、学生アンケートでは、1 時間以上予習したと回答した学生が約 20%程度、1 時間以上復習したと回答した学生が約 20%程度でした。

Q5 必修科目単位認定の理解レヴェルはどこに置いていますか？

必修科目単位認定の理解レヴェルは、(1)授業内容を理解し、(2)自分でそれを期末試験やレポートで記述できれば合としています。

Q6 発展的学習は本学においてどのように実践すべきなのか？教えて欲しいと思います。

発展学習に関してはそこまで手が回っておりませんので、今後の課題と考えております。

Q7 基本典籍の講読などで工夫なさっていることはおありですか？

ゼミで経済・統計関連の書籍を読んでもらって、発表をしてもらっています。レジュメの書き方などは教えればすぐにできるですが、学生の皆さんの読解力や読んだ内容を発表する力などはかなりばらつきが大きく、どのように指導すべきか毎年頭を悩ませています。

Q8「私語を絶対にさせない」と学生が書いている。注意の仕方に何か工夫がありますか？

初回・第２回授業冒頭でスライドに「1.他人に迷惑をかけないこと、2.私語をしないこと、3.スマホ・タブレット等のすべての電子機器をマナーモードにしておくこと、以上のルールを守れないものは退室を命じる」と表示し、授業中は私語をしている学生のところに行って注意をします（一番後ろの席で喋っている場合は、授業を中断してそこまで行って注意します）。GW 明けにまた少し騒がしくなるので、同じように注意します。その後は私語の注意をすることはほとんどなくなります。

Q9 グラフや数式の説明をパワーポイントで行うと居眠りする学生が少なくないと思いますが、板書よりもパワーポイントの方がすぐれているとお考えですか？

パワーポイントのほうが板書よりも優れているかは非常に難しいところで、私自身も今でも悩んでいるところです。先生方もよくご存知の通り、学生が自分自身の手で書くことで理解することも多いですので。パワーポイントを中心とする場合、学生が受け身になることが多いと思いますので、スライドに時事問題を織り込んだり、C-learning を使って課題を出したりしています。

【フレンチ先生への質問と回答】5 問

質問ありがとうございます。質問も答えますが、その前に私の考えを少し説明します。関心を惹起させるとは色々の技を使っています。教育より学生のやる気が大切ほど注目しています。テスト（中間、期末、それに小テストを 2 週間ごとに 1 回）、教材の分かりやすさと面白さ、先生の純粋熱心、授業中の冗談　（学生は先生が好きならばもっと習いたくなる）、学生が授業内容を現実に使える証拠を見せる（学生が尊敬する難易度が大切）、そして学生のほぼ全員は現実に授業内容が使えると思ったらチームっぽくなります。私は出来る限りこの全てを出来る限り多く授業に入れています。

Q1 教材準備にどれほどの時間をかけておられますか？

教材の準備する時間ははっきり言えません。英語 IA の授業の教材はもう作られているので準備する時間はほぼない。初めて作った時は 1 つのレッスンで 1～2 時間かな？そして、その後に数年をかけて改良する。

Q2 学生へのフィードバックをどのような形で行っていますか？

学生へのフィードバックは簡単：テストの準備中では応援と支援。「頑張れ！You can do it! 」とかをよく言う。そして現実に使えるかどうかのテストで失敗するか合格するかのフィードバック。学生が失敗したら「もう一回受けて、頑張って！」の応援。そして失敗した後の合格を減点しないこと。

Q3 自律的学習が可能になるのは全体の何割程度ですか？

自律的学習は複雑です。先生の目標によって異なります。私の思いでは自律的学習をさせようとするより学生の個人アイデンティティーを動かそうとしています。教えていることが学生のアイデンティティーになれば自律的学習は一生になる。それを何割にできているか自分でもよくわかりませんが、1 割以上と思う。

Q4 必修科目単位認定の理解レベルはどこに置いていますか？

理解レヴェルを答えにくいですね。私は理解より現実にできることを注目しているので、学生ができればいい。できなければ合格するまで頑張ればいいと思っています。

Q5 発展的学習は本学においてどのように実践すべきなのか？

発展的学習をさせるのは授業内容によって異なりますが、基本は上記に書いたこと通りと思います。授業内容のどこが先生にとって純粋熱心が出ますか？それを使って学生に分かりやすくて面白く表して、現実的なテストをたくさんやって学生に「頑張ればできるよ！」を経験させて、支援・応援・冗談して、学生を評価する人ではなくチームのコーチになって、感動して、もしかして学生のアイデンティティーを動かすかもしれません。